

2015 年度 本州太平洋におけるサケ回帰状況 (第 2 報 : 10 月 31 日現在)

国立研究開発法人水産総合研究センター
東北区水産研究所 沿岸漁業資源研究センター

- ・ 10 月 31 日現在までの本州太平洋側の地域全体のサケ来遊数は前年を下回る
 - ・ 4 年魚の河川捕獲数は、河川によって状況が異なり、岩手県の津軽石川、織笠川、片岸川では顕著に少ない状況
 - ・ 震災年に放流された 5 年魚の河川捕獲数は、青森県の奥入瀬川、岩手県の安家川、片岸川、盛川、宮城県の気仙沼大川において、過去 10 年間で 2 番目～最も少ない状況
- ※11 月の最盛期に向けて引き続き今後の動向を注視する必要があります。

1. サケ来遊概況

10 月 31 日現在の本州太平洋側（竜飛岬から東の青森県～茨城県）におけるサケ来遊数（沿岸漁獲数と河川捕獲数の合計）の累計値は 215 万尾^{※1}（前年同期：87%）と前年を下回り、平年同期（1989～2014 年の平均値、375 万尾）との比較では 57%という状況です（図 1）。

河川捕獲数の累計値は 19 万尾（前年同期：111%）と前年を上回り、平年同期（34 万尾）との比較では 57%となっています。

※1：青森県（太平洋）、岩手県、宮城県の河川捕獲数および沿岸漁獲数（10 月 31 日現在）、茨城県河川捕獲数（10 月 20 日現在）の累計値

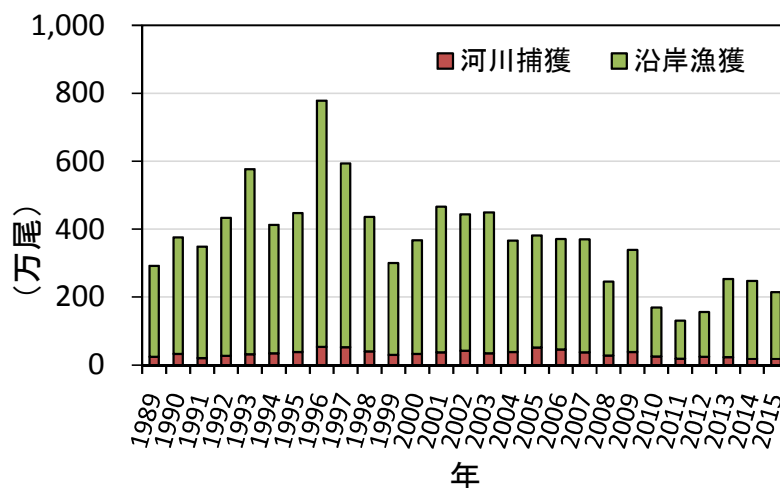


図 1 8 月 1 日～10 月 31 日までの本州太平洋側におけるサケ来遊数（累計値）の経年変化

2. 年齢別河川捕獲数と4年魚および5年魚の河川捕獲状況

現在までに年齢査定を終了している河川について、年齢別の河川捕獲数、主群となる4年魚および震災年に放流された5年魚の河川捕獲状況をお知らせします。

※枠内：第1報と同文

なお、本年度、年齢調査結果のお知らせを予定している河川および各河川におけるサケふ化場の被災状況を図2に示します。調査河川の中では、岩手県の安家川、田老川、津軽石川、片岸川、盛川のサケふ化場において、津波被害が甚大であったため、回帰動向が特に注目されます。



図2 2015年度 年齢調査河川（左図）および各河川におけるふ化場の被災状況（右表）

青森県

【奥入瀬川】

4年魚の捕獲数は、過去10年間で3番目に多くなっているものの例年並み（図3-B）、5年魚の捕獲数は過去10年間で最も少なくなっています（図3-C）。これらにより、全ての年齢構成を累計した河川捕獲数（以下、累計河川捕獲数）は、例年並みとなっています（図3-A）。

【新井田川】

4年魚の捕獲数は、過去10年間で最も多くなっており（図3-B）、5年魚の捕獲数は、昨年度を上回り、例年並みとなっています（図3-C）。これらにより、累計河川捕獲数は過去10年間で2番目に多い値となっています（図3-A）。

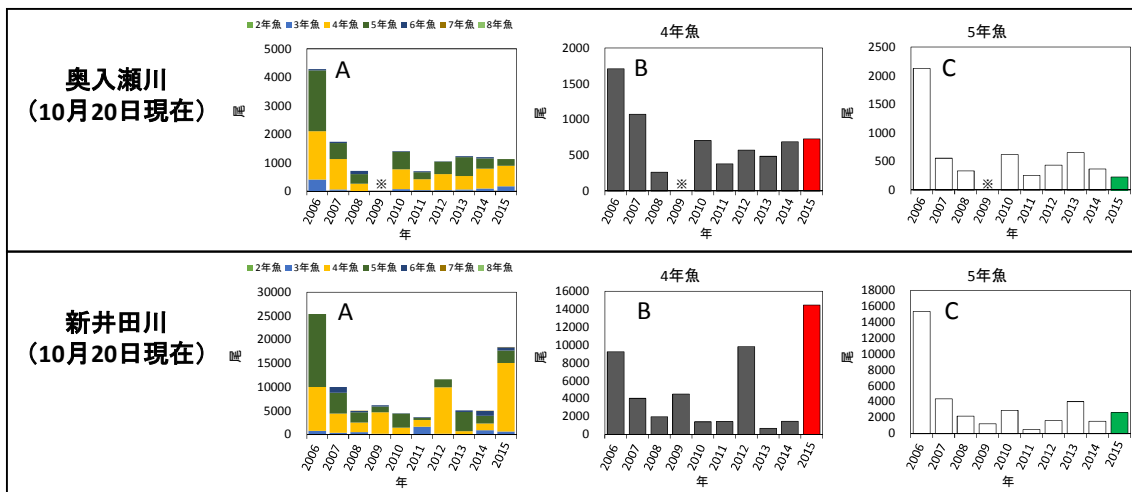


図3 年齢別の河川捕獲数 (A) および4年魚 (B)、5年魚 (C) の河川捕獲数の経年変化

いずれのグラフも過去の10月20日時点における累計値と比較。※は調査を実施していないことを示す。

岩手県

【安家川】

4年魚の捕獲数は、過去10年間で最も多くなっており (図4-B)、5年魚の捕獲数は、昨年度を下回り、過去10年間では、最も少ない状況になっています (図4-C)。これらにより、累計河川捕獲数も過去10年間で2番目に多い値となっています (図4-A)。

【田老川】

放流数が少なかった4年魚の捕獲数は、過去10年間で4番目に少なくなっており (図4-B)、5年魚の捕獲数は、昨年度を上回り、過去10年間の変動の範囲内となっています (図4-C) これらにより、累計河川捕獲数も過去10年間で2番目に少ない値となっています (図4-A)。

【津軽石川】

4年魚の捕獲数は、極めて少ない状況であり (図4-B)、5年魚の捕獲数については、ほぼ例年並みとなっています (図4-C)。これらにより、累計河川捕獲数は、過去7年間で低い水準に留まっています (図4-A)。

【織笠川】

4年魚の捕獲数は、極めて少ない状況であり (図4-B)、5年魚の捕獲数は、ほぼ例年並みとなっています (図4-C)。これらにより、累計河川捕獲数は、過去9年間で低い水準に留まっています (図4-A)。

【片岸川】

放流数が少なかった 4 年魚、および 5 年魚の捕獲数は、ともに極めて少ない状況であり（図 4-B）、これらにより、累計河川捕獲数は、過去 10 年間で最も少なくなっています（図 4-A）。

【盛川】

放流数が少なかった 4 年魚の捕獲数は、前年を上回り、過去 10 年間の平均を上回っており（図 4-B）、5 年魚の捕獲数は、昨年度を下回り、過去 10 年間で 2 番目に少なくなっています（図 4-C）。これらにより、累計河川捕獲数も過去 10 年間で 4 番目に多い値となっています（図 4-A）。

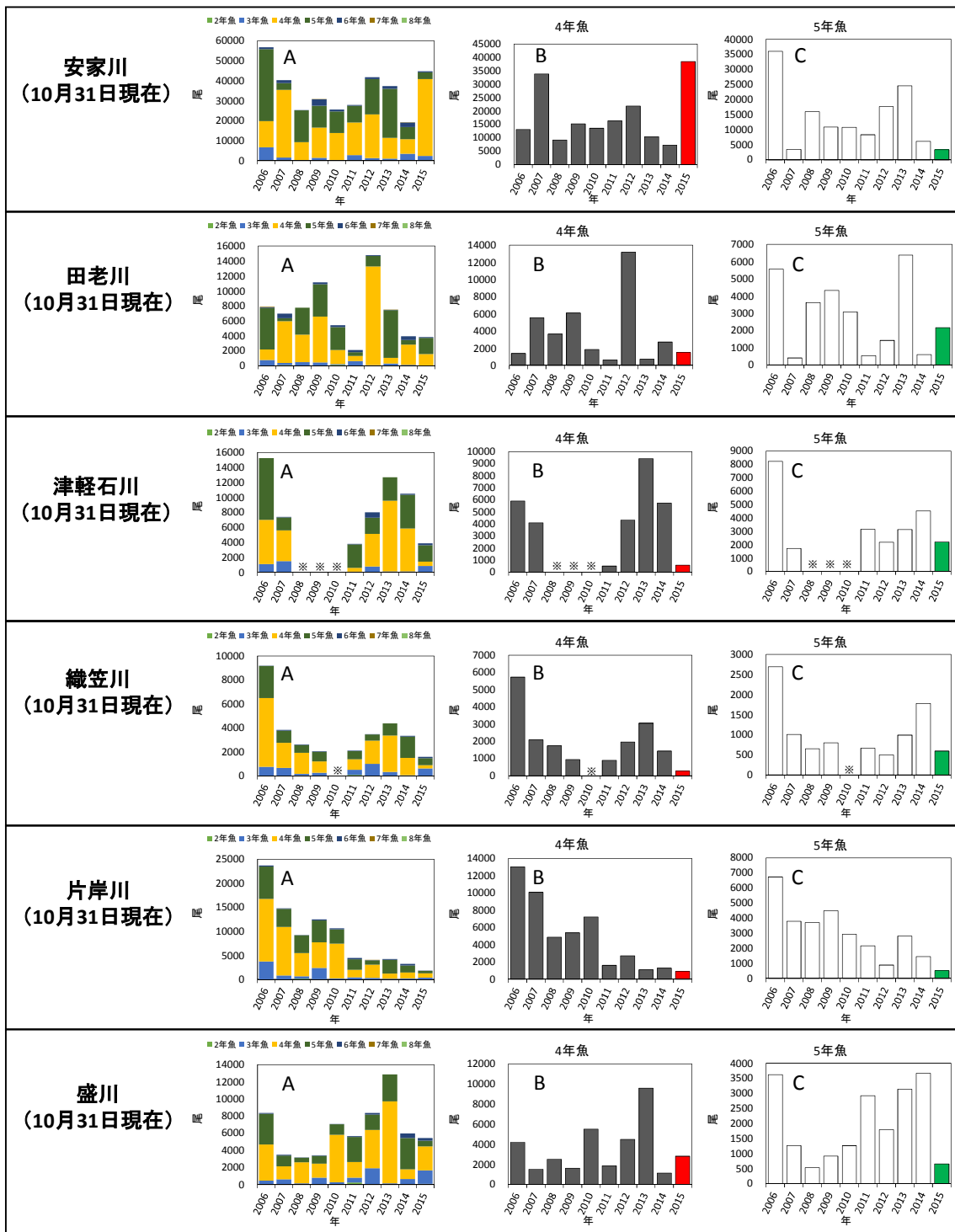


図4 年齢別の河川捕獲数 (A) および4年魚 (B)、5年魚 (C) の河川捕獲数の経年変化

いずれのグラフも過去の10月31日時点における累計値と比較。※は調査を実施していないことを示す。

宮城県

【気仙沼大川】10月20日現在

4年魚の捕獲数は、前年を上回るものの、過去10年間の平均を下回り（図5-B）、5年魚の捕獲数は過去10年間で最も少なくなっています（図5-C）。これらにより、累計河川捕獲数は、過去10年間で低い水準に留まっています（図5-A）。

【北上川】10月31日現在

4年魚の捕獲数は前年を上回り、5年魚の捕獲数は前年を下回るものの、いずれも例年並となっています（図5-B、5-C）。これらにより、累計河川捕獲数は例年並みとなっています（図5-A）。

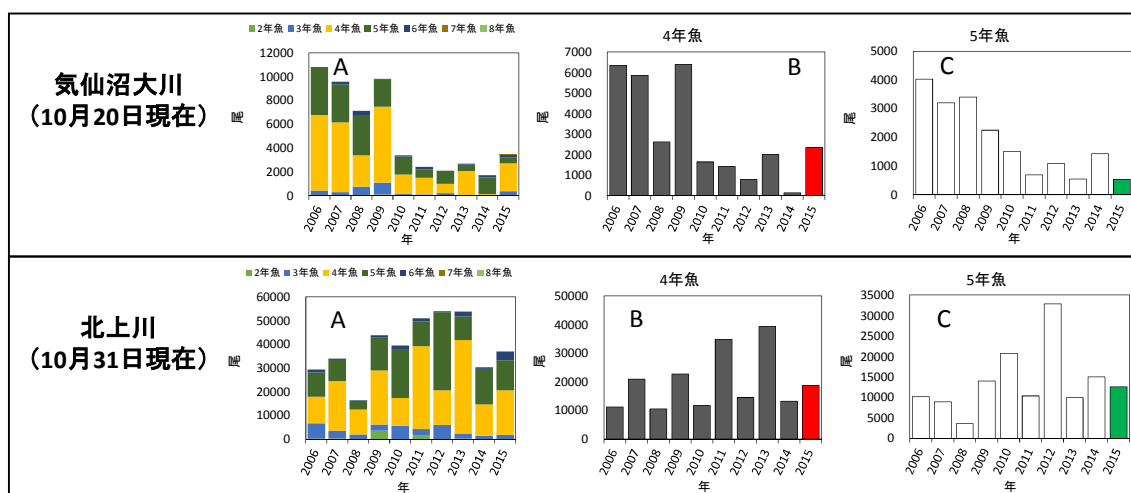


図5 年齢別の河川捕獲数（A）および4年魚（B）、5年魚（C）の河川捕獲数の経年変化

気仙沼大川は10月20日、北上川は10月31日時点における累計値と比較。